

2014 年度前期 授業評価アンケート結果に対するコメント

—文学研究科—

文学研究科長 石 鍋 真 澄

基本的には例年と同様の傾向が認められる。最も重要な項目といえる「総合的にこの授業を評価できる」の評価項目に対する評価の平均値が、4.86 と高い水準を維持している点は、評価されてよいだろう。「授業への教員の熱意を感じた」の評価項目に対しても、4.87 の高い平均値が出ている。この点も喜ばしいことと思う。他の項目に関しては、大きな問題があるとは思えないが、唯一、「予習または復習をよくした」という評価項目に対する回答が、4.29 と他の項目と比べ低い平均値になっているのが気になるところだ。学生の自主的な学習と、授業に対する積極的な姿勢をひきだしていくことが、今後の課題だといえよう。また、「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」という評価項目に対する平均値が、4.55 と他の項目と比べてやや低いことも気になる。こうした傾向は、昨年までの調査でも認められる。この点についても、今後の配慮、工夫が必要と考えられる。